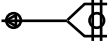
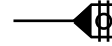


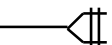
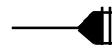
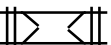
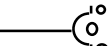

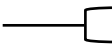





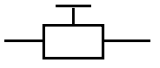
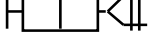



第3章 参考資料

第1節 設計図書の記号

3.1.1 管種記号 平面図及び配管詳細図に記載する配管記号(略記号)は次のとおりとする。

管種	直管	ライナ管	継輪	G-Link
GX 形管				
NS 形管				
K 形管				
管種	直管		ソケット	
水道配水用 ポリエチレン管				
				

仕切弁 (耐震型)	
消火栓	
空気弁	
バルブ付 T 字管	
伸縮可撓管	
管路断水器	

3.1.2 管種簡略 記号

平面図及び配管詳細図に記載する管種記号は次のとおりとする。

管種	記号	備考
水道用合金鉛管	LP	Leaden Pipe
水道用脱酸銅管	CP	Copper Pipe
水道用亜鉛メッキ鋼管	GP	Gas Pipe
水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管	VLGP	Vinyl Lining Steel Pipe
水道用タールエポキシ樹脂ライニング鋼管	TLGP	Tar Epoxy Lining Steel Pipe
水道用铸铁管	CIP	Cast Iron Pipe
水道用メカニカル型ダクタイル铸铁管	MDIP	Mecanical Ductile Iron Pipe
水道用メカニカル型ダクタイル铸铁管(SⅡ形)	MDIP(SⅡ)	Mecanical Ductile Iron Pipe
水道用メカニカル型ダクタイル铸铁管(S形)	MDIP(S)	Mecanical Ductile Iron Pipe
水道用タイトン型ダクタイル铸铁管	TDIP	Titon Ductile Iron Pipe
耐震継手ダクタイル铸铁管(NS形)	HRDIP(NS)	Hazard Resilient Ductile Iron Pipe
耐震継手ダクタイル铸铁管(GX形)	HRDIP(GX)	Hazard Resilient Ductile Iron Pipe
ダクタイル铸铁(仕切弁)	FCD	Ferrun Casting Ductile Pipe
水道用塗覆装鋼管	SP	Steel Pipe
水道用硬質塩化ビニル管	VP	Vinyl Pipe
水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管	HIVP	High Impact Vinyl Pipe
水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管	PLGP	Polyethyne Lining Steel Pipe
水道用ステンレス鋼管	SSP	Stainless Steel Pipe
水道用軟質ポリエチレン管	PP	Polyethyne Pipe
水道配水用ポリエチレン管	HPPE	Higher Performance Polyethylene Pipe

第2節 竣工図作成

- 3.2.1 一般事項
- 1 用紙のサイズは A1 版を標準とする。
 - 2 提出部数は 2 枚とし、うち 1 枚は工事完成図書に綴るものとする。
 - 3 平面図の作成
次図参照のこと。
 - (1) 新設の管種、口径、総延長並びに仕切弁等の口径、数量を引き出し線を用いて明示する。
 - (2) 新設管は実線、既設管は破線とし、併せて口径も明示する。
 - (3) 異径管等を使用した場合は、引き出し線を用いて材料名を記入する。
 - (4) 本管からの取り出し地点及び管の曲がり等、維持管理上その配管位置が明確となるよう、2 点以上のオフセットを記入すること。
 - (5) 新設管の官民境界からの出巾及び土被りを変化点ごとに、記入すること。
 - (6) 給水管の使用者氏名、栓番、口径及び境界等からの距離を記入すること。
 - (7) 防護コンクリート施工時は、寸法を明示すること。
 - 4 標準横断図の作成
 - (1) 道路幅員、新設管の口径及び出巾等が相違する箇所ごとに作成すること。
 - (2) 新設管の口径、出巾及び土被り、道路幅員、他の地下埋設物等を記入すること。
 - 5 配管詳細図の作成
 - (1) 配管状況を 3.1.1 管種記号に基づいて図示し、使用材料名を記入すること。
 - 6 給水切替図の作成
 - (1) 給水管ごとに、使用者名及び栓番号を付して作成すること。

- (2) 給水管の口径、管種及び使用材料を記入すること。
- (3) 給水管の横引き及び立上り等の寸法を記入すること。
- (4) 既設給水管接続確認承諾書
- (5) 給水管更新報告書

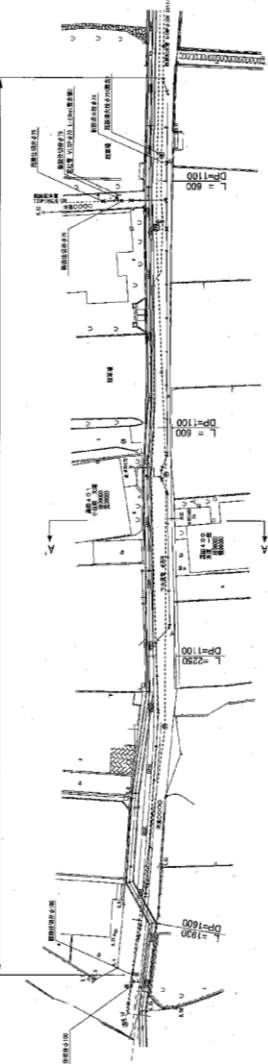
7 標題欄の作成

- (1) 施工業者名を記入すること。
- (2) 工事名ほか必要事項を記入すること。

平面図

縮尺 1:250

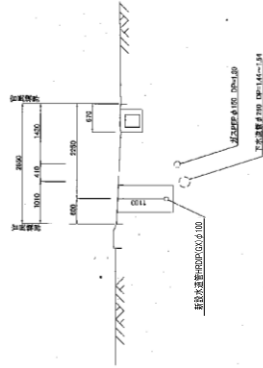
HRDP(GX) φ100mm L=110.5m φ75mm L=8.7m 仕切弁設置工 φ75mm 2基 消火栓設置工 φ75mm 1基



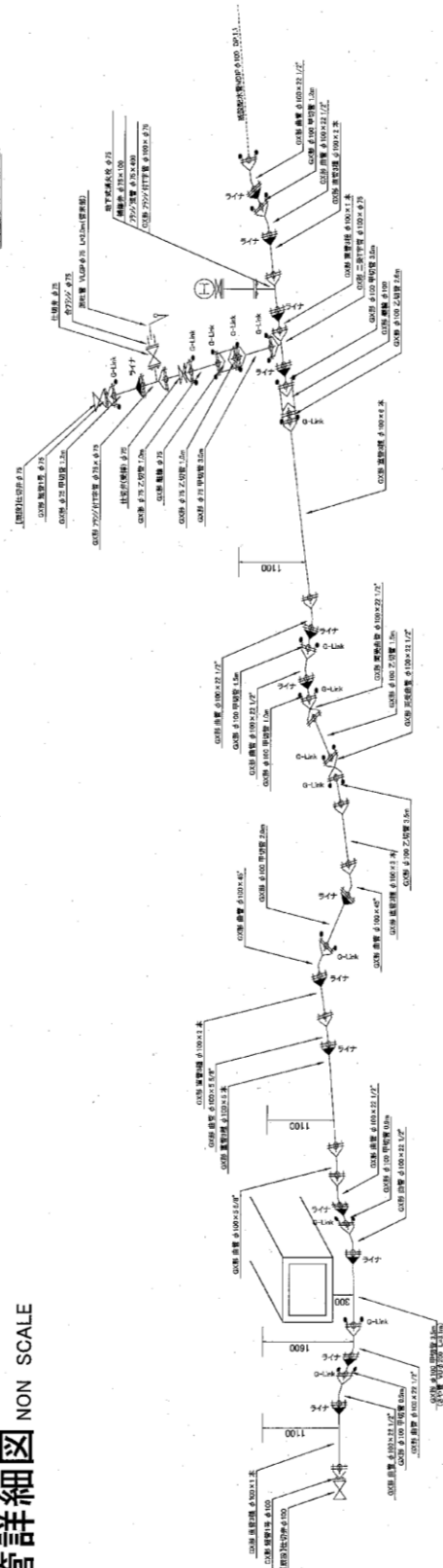
横断面

縮尺 1:50

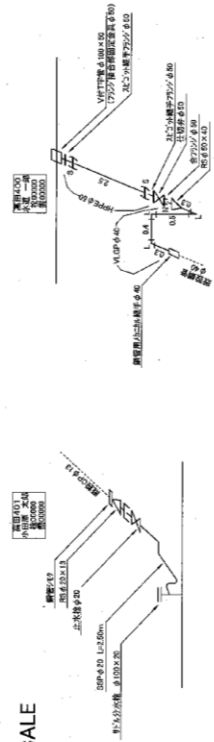
A-A'断面



配管詳細図 NON SCALE



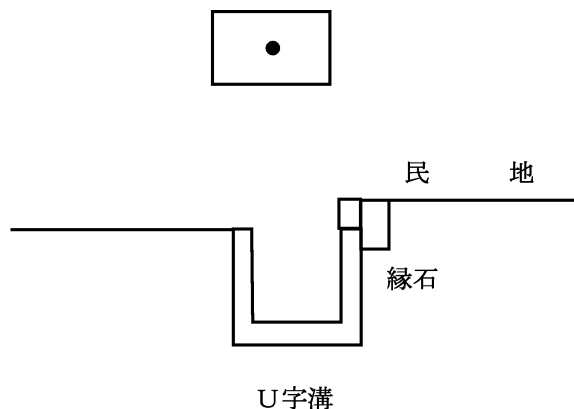
給水切替 NON SCALE



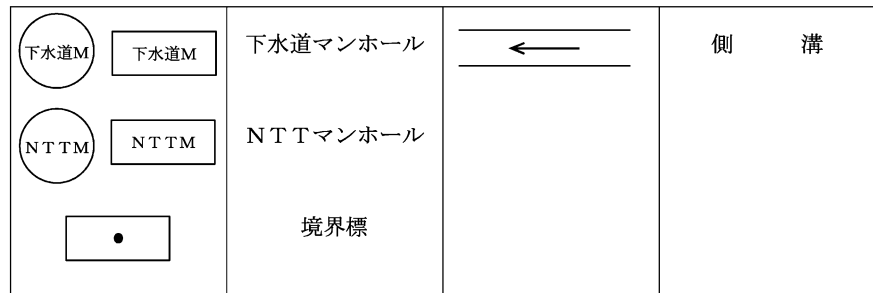
竣工図	
施工業者名	OO配水工事
工面名	作成年月 平成 年 月
縮尺	施工位置 小田原市 市内
図面番号	1-1
設計	小田原市水道局

第3節 仕切弁等のオフセット図の作成

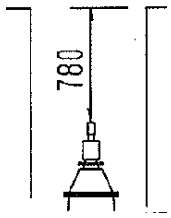
- 3.3.1 一般事項
- 1 配水管工事等で新規に設置した仕切弁、消火栓及び空気弁等のオフセット図は、縮尺 1/200 により、永久性の高い地物を測点とし、平板測量により明示すること。測点が永久性の低いものしかない場合は、できるだけ多くの測点から測ること。
 - 2 永久性の高い地物の順位は、次のとおりとする。
 - (1)境界標（公設、私設）
 - (2)下水道及びNTTのマンホール等。(水道、ガスの表管は除く)
 - (3)境界線（構造物縁石、側溝）
 - (4)橋梁（新しい橋梁、古い堅固な橋、木橋）
 - 3 オフセット図は、工事完成届と同時に提出すること。
 - 4 仕切弁等ごとに作成すること。
 - 5 位置図の作成用紙の大きさは、JIS A4 判とする。
 - 6 オフセットの記入数値は、cm 単位とする。
 - 7 オフセット図の提出部数は、2 部とする。
 - 8 オフセット図の記入方法は、次のとおりとする。
 - (1)測定方法の例
 - ア 境界標は、基準点の中心とする。
 - イ マンホール等の場合は、丸形、角形とも蓋の中心とする。
 - ウ 縁石の場合は、縁石の道路側とする。
 - エ 側溝の場合は、側溝の天端外側（民地側）とする。
 - オ 橋梁の場合は、親柱の最短距離側の角とする。

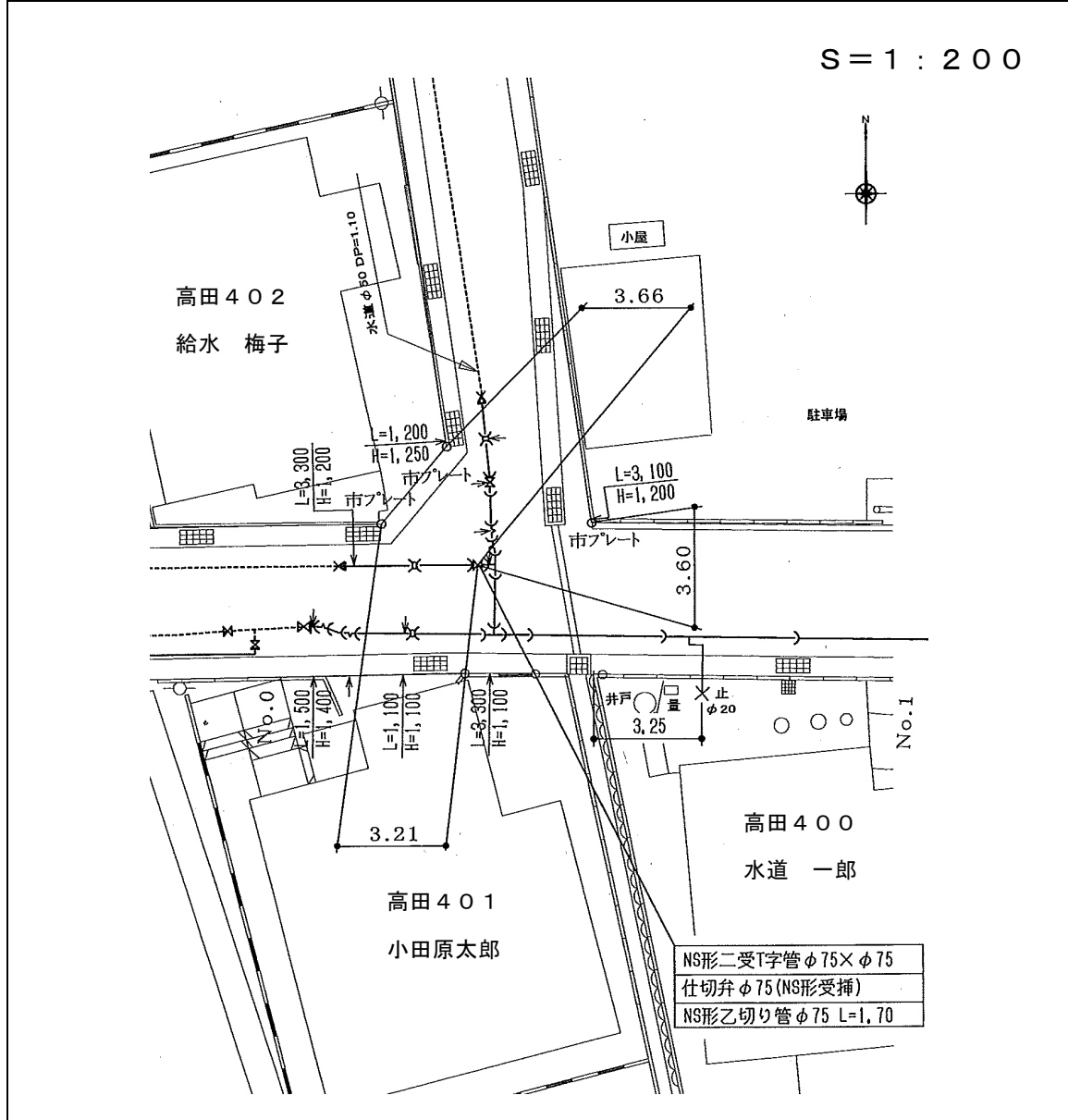


(2) 基準点の例



- 注) 1 基準点は、原則として3点以上とすること。
2 測点距離は、原則として10m以内とすること。
3 設置箇所を明確にするため、付近の住民の住所、氏名を記入すること。
4 配管の詳細と材料名を記入すること。
5 深度は、仕切弁等の天端から地盤までの寸法とする。
- 9 バルブオフセットの記入例を次図に示す。

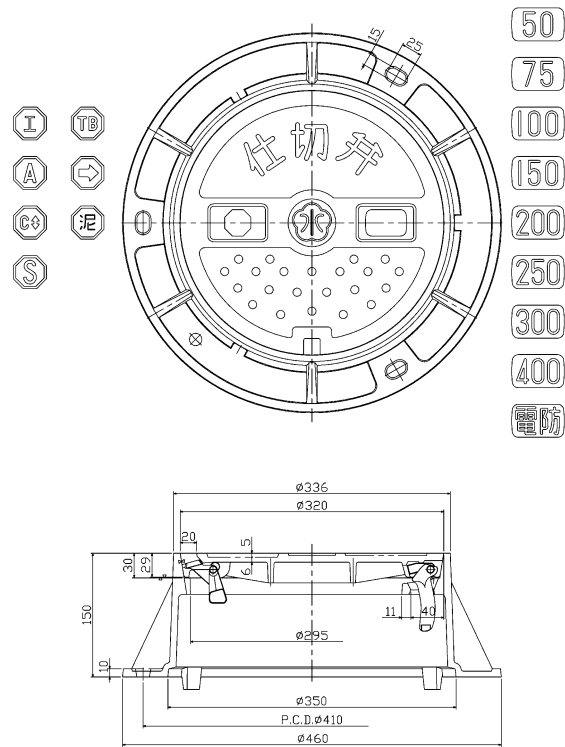
バルブオフセット図		配管図 No	
弁 No	口径	深度	備考
V - H - A -	100		※ 消火栓及び空気弁の場合は、本管までの材料を記入 補修弁 $\phi 75 \times 100$ フランジ短管 $\phi 75 \times 150$ フランジ付丁字管 $\phi 100 \times 75$
設置年月日	H 年 月 日	調査年月日	H 年 月 日



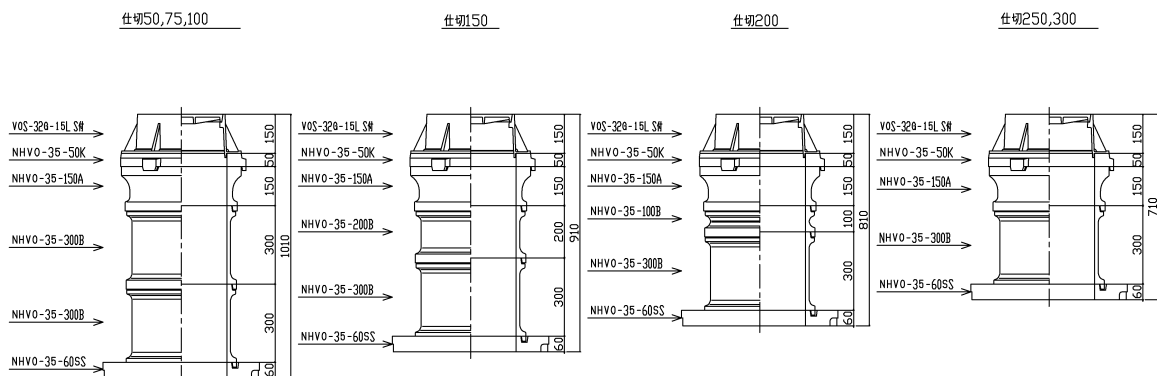
第4節 表筐及び室工の設置標準図

仕切弁表筐（丸形）及び室工の標準設置図を次図に示す。

仕切弁表筐

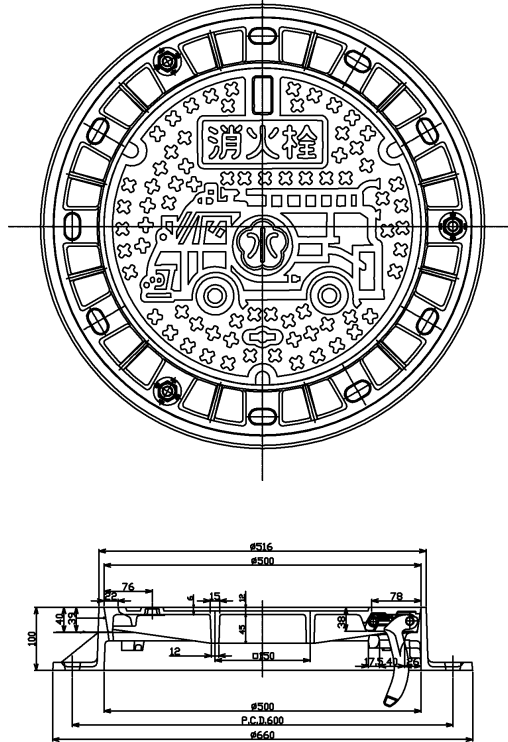


仕切弁室工（ハイピット（参考 $D_p=1100$ ））

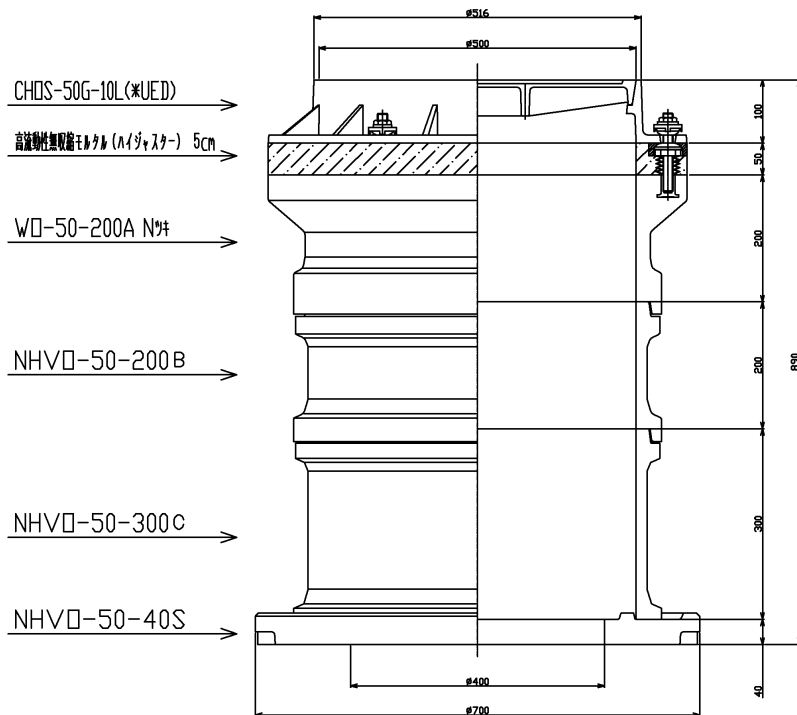


消火栓表筐（丸形）及び室工の標準設置図を次図に示す。

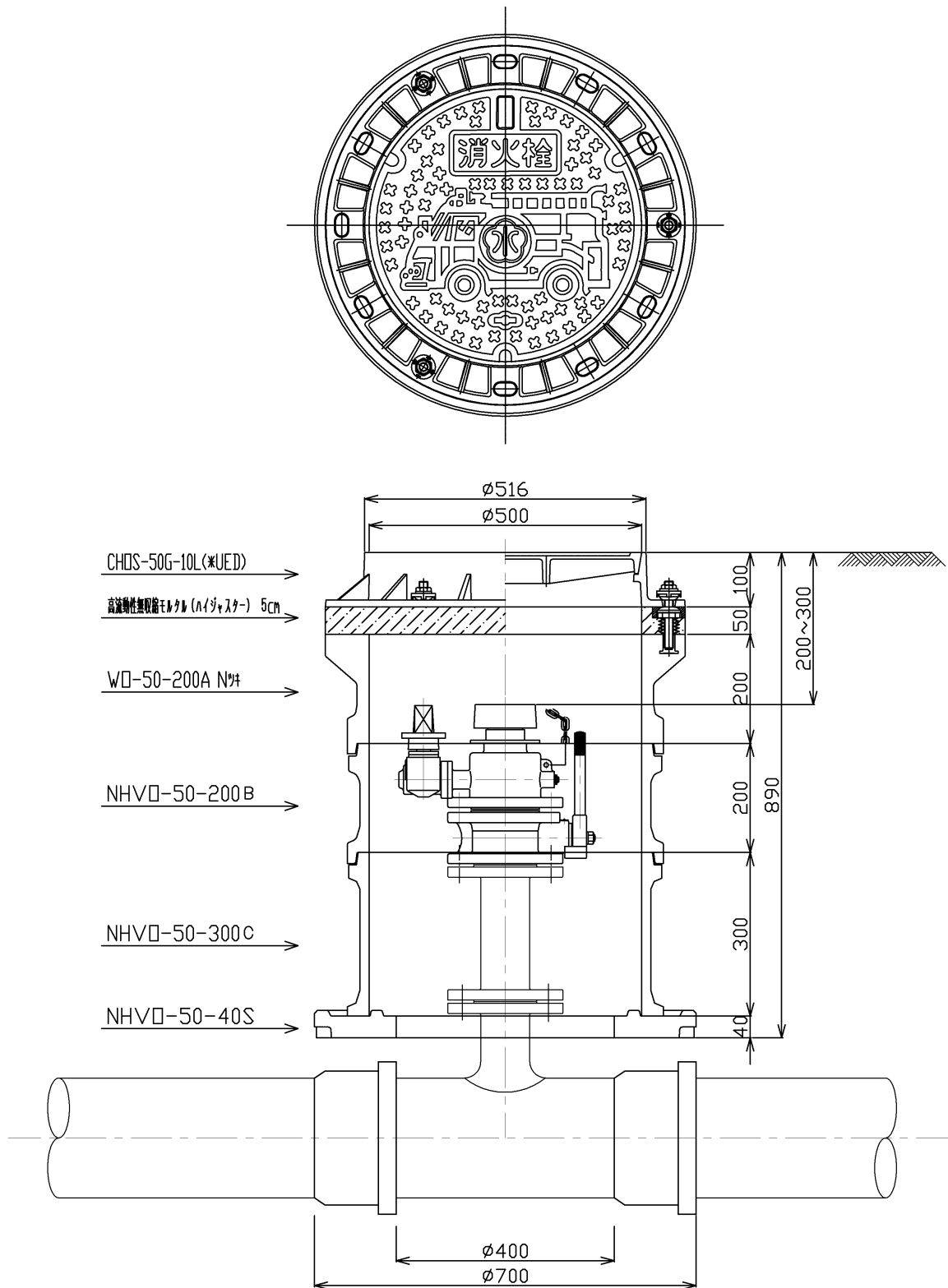
消火栓表筐



消火栓室工（ハイジャスター）

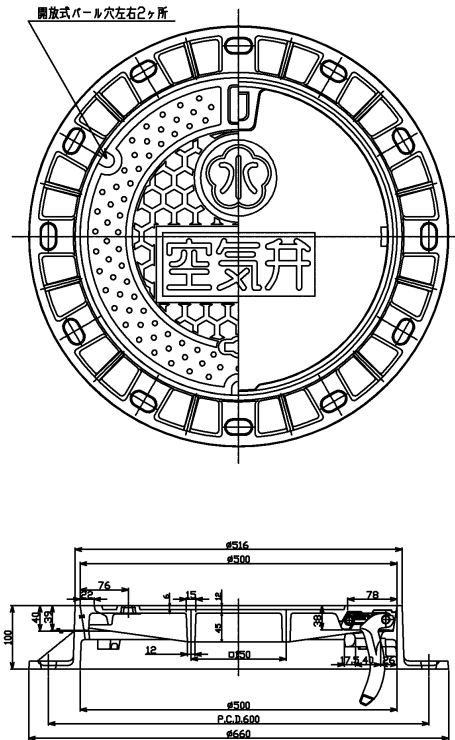


消火栓表筐の天端から放水口までの寸法は、原則として 200~300mm とする。

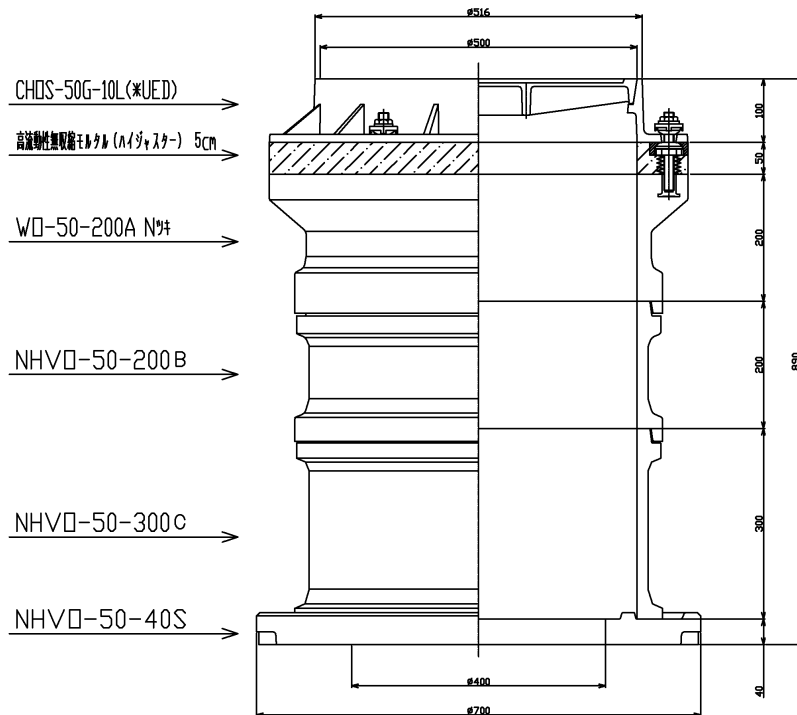


空気弁表筐（丸形）及び室工の標準設置図を次図に示す。

空気弁表筐

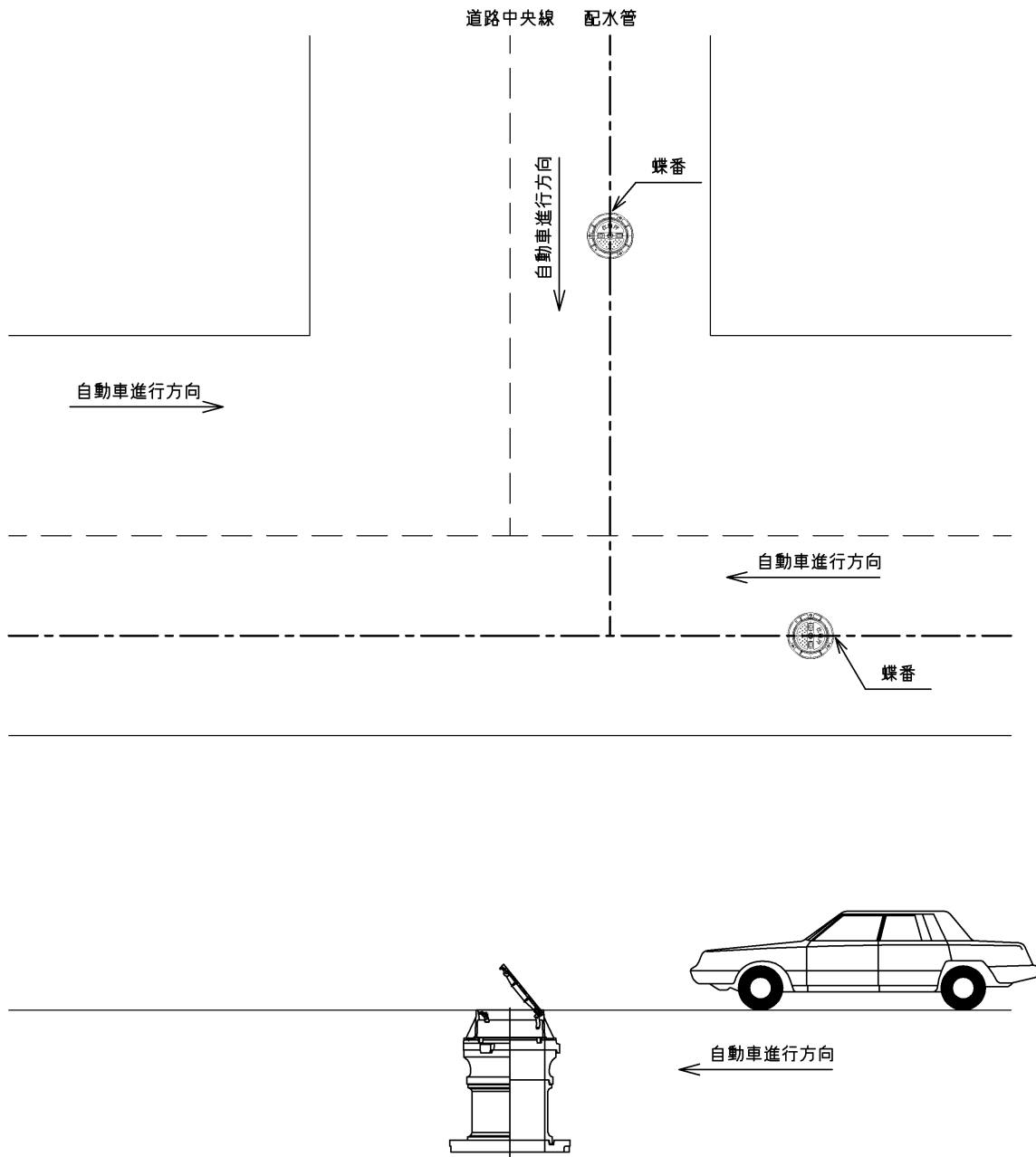


空気弁室工（ハイジャスター）

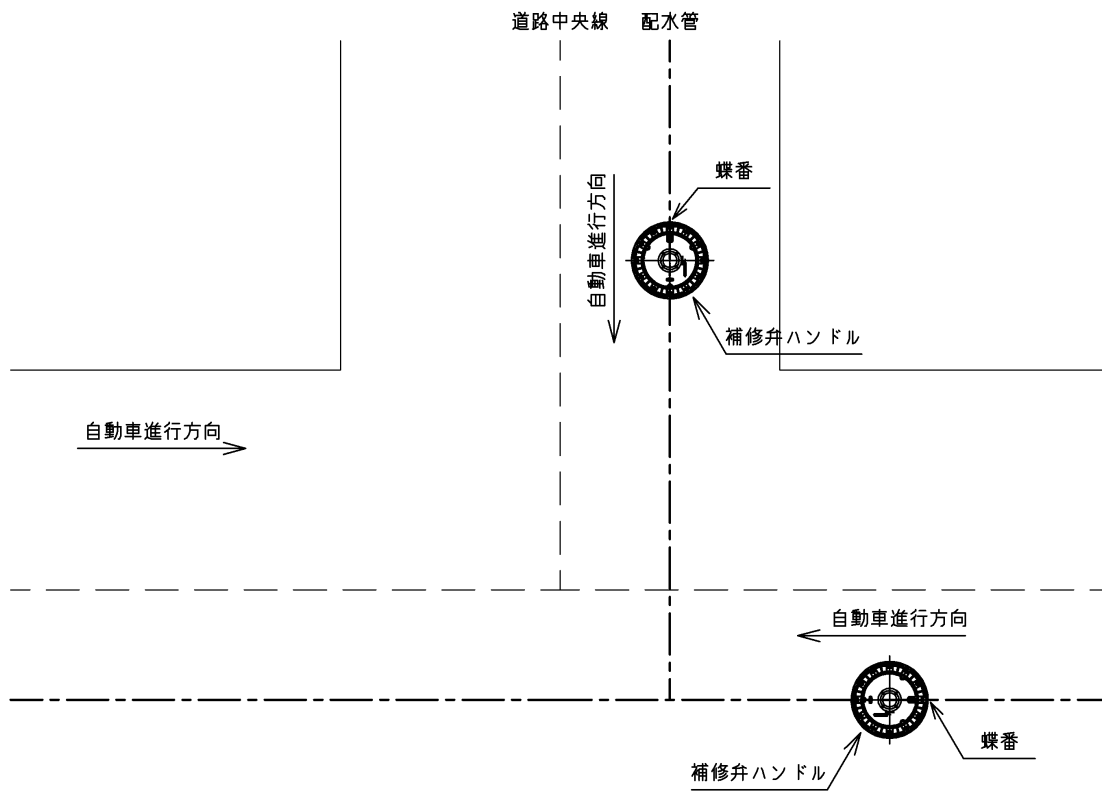


第5節 表筐及び補修弁の設置方法

1. 仕切弁表筐（丸形）設置方法について



2. 消火栓、空気弁の表蓋(丸形)及び補修弁の設置方法について



第6節 交通管理標準図

1. 標示施設等及び保安施設について

- ・ 道路工事における標示施設等の設置基準（国土交通省）
- ・ 道路工事保安施設設置基準（国土交通省）
- ・ 道路工事等における標示及び保安施設の設置基準（神奈川県）

上記設置基準に基づき実施すること。

「様式類」については、「水道工事標準仕様書 別冊」参照